

第 45 回埼玉県消費者大会

800 人が「騙されないように」と耳を傾け学びました

大会は「高めよう、消費者市民力！平和で安心してらせる社会をつくりましょう」をスローガンに、10月15日に埼玉会館で開催されました。

■実行委員会 24 団体の紹介と委員長あいさつ

オープニングは日本コカリナ協会のお二人から3曲が披露され、コカリナの木の柔らかな音色に会場が包まれました。その後、実行委員会を構成する24団体の紹介が行われ、代表して片貝実行委員長

が「念願の消費者庁が新設され、そして政権が交代した今、私たちはさらに消費者として行動していかなければなりません。力をあわせて平和で安心してらせる明るい未来を実現させましょう」と呼びかけました。

■来賓あいさつ

安久沢埼玉県県民生活部副部長より「皆様には、消費生活、環境や福祉、食の安全などあらゆる分野での県政へのご協力に感謝します。県では今年度、学校ファームをスタートし平成23年度までに県内1,271の全小中学校に設置したいと考えています。9月1日に消費者庁が設置されましたが、消費者に、より身近な地方の消費者行政が強化されて初めて消費者の安心・安全が確保できます。今後も消費者にやさしい埼玉県を作っていく」と、知事祝辞を代読いただきました。

■「基調報告」「埼玉県への要請書」等の提案

伊藤恭一事務局長が「今、世界は大きな曲がり角にきており日本も内需中心の経済に機軸を移しつつあること、わたしたち消費者は憲法の理念が生かされ消費者生活者のくらしが最優先される消費者市民社会を願いめざしていること、勤労者の収入減や非正規労働者の雇い止めなど格差と貧困が広がり、自殺・介護殺人・餓死など人が尊厳をもって生きていけない社会になっているのか問われていること、かけがえのない地球を次世代に引き継いでいくための2つの課題は温暖化防止と核兵器廃絶が課題であること」などについて提案し、拍手で確認されました。

記念講演 「人はなぜ騙されるのか」～科学者が解明！消費者被害から核兵器まで

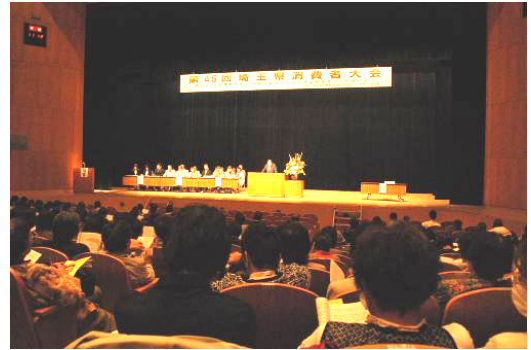
講師：安齋育郎氏（立命館大学名誉教授）



<要旨>

昨年7月、アイルランドの女性映画監督に日本は平和だと思いますかとインタビューを受けました。日本の自殺者数は毎年3万人以上で、人間が生きるのを息苦しくさせるような社会的暴力が存在しているので、決してこの国は平和とは言えないと答えました。今年のノーベル平和賞はオバマ大統領に決まりましたが受賞の意味をじっくり考え、発言を実行してほしい。日本は騙し列島になっていて驚くべき事態です。マンションや消費・賞

味期限等の偽装事件、水道メーター、タウンミーティング等の談合事件がありました。一般の消費者が直面しているのは、振り込み詐欺事件、不当架空請求事件ですが、消費者セ



ンターや行政の窓口、弁護士に相談し、自分で勝手に判断しないことが大切です。人間が不幸になる原因は3つあります。社会的原因・個人的原因・偶発的原因です。日本で自殺が多いのは、その背景に社会的原因があります。霊は科学的には存在しません。信じている人も多いようですが、本質的な解決にはなりません。詐欺に人間が誘われていく入り口は、思い込みと欲得の2つがあります。部分的な情報から全体がイメージできるのは人間のすぐれた能力ですがある種の思い込みを生みます。楽をして欲を得たいという思想と行動が危険です。思い込みを利用すると欲得に燃えているから簡単に騙されます。私たちは、みんなで話し合い、いろんな角度から事の本質に迫ってお互いに騙されないように消費者リテラシーを磨くことが大切。それは身の回りの詐欺事件から国家的決断にいたるまで私たちが騙されないで平和と安全を求めていくためには必須なことです。消費者大会などで問題意識を束ねてみんなの声を上げていくことがとても大事ではないかと思えます。

■大会アピール採択

さいたま市消団連の久慈代表より提案し、参加者の拍手で確認されました。

450人が分科会に参加！

午後は5つの分科会が開かれ、助言者の報告、各団体の取り組み、参加者の意見交流・質疑等が行われ、それぞれテーマを深めました。

＜第1分科会：食＞ 150人参加
「世界の食料と農業のいま～日本の未来は？～」



＜第2分科会：医療・社会保障＞ 122人参加
「安心してくらししていくために」～どうなるの医療・介護～



＜第3分科会：消費者問題＞ 72人参加
「私たちの消費者庁へ」～届け！消費者の声～



＜第4分科会：環境＞ 65人参加
「地球温暖化防止に向けての産業界の関わり」



＜第5分科会：教育・子育て＞ 41人参加
「子どもの放課後について考える」
～部活動について話し合ってみませんか？～